

■提言の背景■

昨今の経済状況は、国内はもちろん県内においても回復しつつあるものの、地域間にばらつきが生じています。地域経済が真に回復し、地域住民が豊かさを実感するためには、地場産業の振興を図ることが不可欠です。地場産品や伝統的工芸品等は、昔ながらの技術・技法を用いて製造され、住民の生活の中で育まれながら受け継がれてきました。ものづくりの技は、産業の振興とともに地域の固有な文化として生活に豊かさと潤いを与え、人々のアイデンティティを形成するものでもあります。

ところが、時代の経過とともに人々の生活スタイルは変化し、消費者ニーズも多様化する中、東南アジアや中国の追い上げに伴う安価な輸入製品の流入や生産拠点の海外移転等により、多くの伝統産業は久しく苦戦を強いられております。また、後継者問題、原材料・用具確保難など様々な問題から低迷を強いられてきました。

ここ会津においても他の伝統的工芸品産地と同じく、低迷状態にあるといえます。

会津の伝統的工芸品や物産の多くは、今から400年ほど前の室町時代の領主・蒲生氏郷の奨励により誕生し、传承されてきましたが、なかでも地場産業として今も大きな役割を占めている漆器産業に関して、新たな展開が果たされることを願い本提言が真摯に受けとめられることを期待するものです。

■提言の主旨■

『持続可能な開発と地場産業』

Sustainable Development & local industry

持続可能な開発とは現代の世代が、将来の世代の利益や要求を充足する能力を損なわない範囲内で環境を利用し、要求を満たしていこうとする理念を指します。

現代社会における私たちの際限のない便利さと効率を求める欲求は、環境と経済と社会のバランスを崩壊し、様々な社会問題を引き起こしてきました。特に、グローバリズムによる世界的分業化が進んだことにより、身近にあったものが地域から離れていくことで、世の中の仕組みを見えにくくしてきました。地場産業の低迷も必然的に起きているといえます。

このような持続不可能な社会では、将来に不安があり、個人が夢を持ったり、日々の生活で幸せを感じて暮らすことはできません。

一方で、地場産業は、その地方の資源・労働力を背景に古くから発展し、その地に定着している産業のことで、持続可能な経済活動としての要素を満たしています。

希薄になりつつある地場産業の存在感を高めていくことで、地域間のつながりや、新しい価値観を呼び起こし、次世代のニーズを損なうことなく、今日のニーズを満たす手法を模索していくものです。